



フォトツアー

指導教員

尾久土正己

プロジェクト名

高野七口活性化プロジェクト

ミッションメンバー

山岸莉那・太田真里亜・野尻野翼・森下結衣

プロジェクト目的

和歌山には高野山という素晴らしい観光地がある。だが、有名なのは南紀白浜や新宮などの南に偏っているように思う。2015年には開創1200年記念祭が開催されるが、若者の関心が少ないままでは、盛り上がりには欠けてしまうと危惧する。そこで私たちは高野山に若者を集客するためにSNSやブログを活用して若者の目線からみた高野山の魅力発信で若い世代を対象に高野山に関心をもってもらうために活動を行う。また、活動を通して自分のキャリアアップや豊富な経験を培うことも目的の一つである。

ミッション概要

日程：11月9日（日曜日）

参加者：50人（和歌山大学の学生、教員）

対象：写真好きの和歌山大学生

クリエの助成金を用いて私たち自身でバスを貸切り、参加者を高野山まで連れていき案内するツアーを行いました。

今回は写真のコンテンツに注目して高野山では参加者に高野山上で写真を撮ってもらいながら、私たちの企画したツアーに参加していただいた。事前に三つのプランを準備して、当日までに参加者が好きなプランになるように配慮、当日のツアーを充実させる仕組み作りを行った。参加者がツアーにて撮った写真はその後、和歌山大学観光学部の2階多目的スペースにて約3週間展示した。

ミッション目的

カメラで写真を撮ることが最近際立って若者の間で人気である。お金を貯金して、決して安くはない一眼レフカメラを購入する人が多く、スマートフォンのカメラが高性能なため、ほとんどの人が自分のとった写真をSNSで発信している。高野山を被写体に写真を撮ってもらうことで、高野山の新しい楽しみ方の提案、カメラで写真を撮ることでの高野山の新しい魅力の発見ができるようなツアーにして、リピーターになってもらえることを目的と

する。

交通費を無料バスで賄えるため、参加者には地域で昼食、お土産を購入してもらい、直接地域にお金を落としやすくできると思う。

また、写真を用いることで視覚的により高野山の魅力を伝えることが可能であると考え。そのため、参加者には高野山で写真を撮ってもらいそれを学内で展示して、高野山に関心をもつ学生を学内から増加させることも目的とする。

活動内容

1. ツアーの企画(6月～10月)

コンセプトや内容、ターゲットを明確にして班内でのイメージを固めていった。企画書の作成を行い、班以外のプロジェクトメンバーへの情報の共有を行った。どんなものを人は写真に収めたいのか、どんなツアーであるならば参加してくれるのか、幅広い視点からツアーの作成を行った。大勢の団体が一緒に行動することは極めて困難であるので、3つのプランを作成して参加者を分散することにした。また、すべて現地での出費は参加者負担である。

・3つのプランの作成

高野山満喫プラン

高野山にある奥の院、檀上伽藍、金剛峰寺たくさんの神聖なスポットを巡る基本的なプラン。お昼には精進料理を召し上がってもらい高野山の文化を満喫してもらった。

おしゃれカフェプラン

高野山内におしゃれなカフェが数多く存在する。

のんびり高野山を楽しみたい。ひと味違った楽しみ方をしたいという人を対象にしたプラン。このプランのお昼にはいくつかのオススメするカフェを提案して自由行動で昼食を摂ってもらった。歩いて移動するので写真を撮りながら、高野山の街並みも楽しんでもらった。

山登りプラン

高野山町石道を秋空の下歩きます。

山路のゴールとなる大門まで悠遠なる時に想いを馳せ、自然の写真をたくさん撮ってもらう。

お弁当を私達が手配してピクニックのように食べる予定でしたが、当日の天候により、危険と判断したためコースを急きょ変更して雨天プランを決行いたしました。

2. 参加者の募集と広報(7月～10月)

参加者の募集のために Facebook や Twitter などの SNS を用いた。また Web 上で参加者を募り、和歌山大学の学内メールにも情報を流していただいた。紙を媒体にしたポスターの作成も行い、学内の至るところに貼ることができ、大変有効な広報を行えたと思う。これらより、最終的には当初の定員を 10 人オーバーする大変うれしい結果となった。



ポスターの写真

デザインもすべてメンバーが担当した。

<http://crea06koya.wix.com/ikoya06#!phototour2014/ch12>

ホームページで応募フォームをつくり参加者を募った

3. 高野山の下見と店舗との交渉 (8月～10月)

各プランの下見をかなり密におこなった。当日にお世話になる飲食店には電話だけでなく直接お店に伺い、当日の料理等の打ち合わせを行った。これらの情報を元に、当日参加者に読んでもらうしおりの作成を行い、よりツアーをよりよいものにすることができた。

4. ツアー実行(11月)

当日は雨でしたので、急きよ多くの変更をおこない無事開催した。お店の料理が出てくるのが遅く、雨という天候のために様々なことが起こりながらもうまく対応できたと思う。これもかなり計画を行ってきた成果であった。

5. ツアー参加者の写真の展示(11月～12月)

ツアーに参加してもらった人に一枚だけベストな写真をそれぞれから集めて、写真プリント A4 サイズでパネルに貼って和歌山大学祭から 3 週間、観光学部棟 2 階の多目的スペースにて展示を行った。参加者の写真のなかからよいと思ったものに展示をみた一般の人に投票できるようにして、グランプリを決定した。展示 1 日



目は和歌山大学祭の公開体験学習にて展示させてもらったので人が多くの人に見てもらうことが出来た。グランプリの写真はより大きく印刷して、パネルに入れて展示した後、獲得者に賞品としてプレゼントした。

ミッションの成果（アンケートより）

今回のミッション中2回のアンケートを実施した。一つはツアー参加者にむけたツアー後のアンケート。もう一つは、学内展示において実施したアンケートでした。ツアー参加者にむけたアンケートは google フォームという WEB を用いてアンケートできるサービスを用いた。アンケート回答数が参加者の半分しかなく、すべての人の意見を総集できなかつた。集まったアンケートからは今回のツアーに対する満足度は 100 パーセントであり、無料でなくても高野山に行きたいという回答が 90 パーセントあり、リピーターしていただくことにつながったと言える。私達自身の対応も好評でアンケートを返答してくれた人(25 名)は今回のツアーに大変満足してくれたと考えられる。またアンケートの返答を得られなかったことに関しては、アンケート以外に写真展示のためのデータ提出や貸し出したカメラの返却などツアー参加者のタスクを増やしすぎてしまったことが一つ。雨や私達の対応が行き届かなくて満足していなかったのではないかとすることも考えられる。ただ、写真展示のためのデータは全員だしていただいたので、それなりに満足してもらったと考えられる。

学内展示のアンケートは和歌山大学祭の公開体験学習にて行った。当日は高校生がたくさん来られていたので図 1 のように 10 代 20 代の人が多いだけでなく、幅広い年代の人に見てもらうことができた。また図 2 は「高野山に行きたくなりましたか？」と問うた質問の結果である。半分以上のぜひ行きたいという回答があり、少なくともどこか出かける時の選択肢の一つに高野山が選ばれるだろうと推測する。

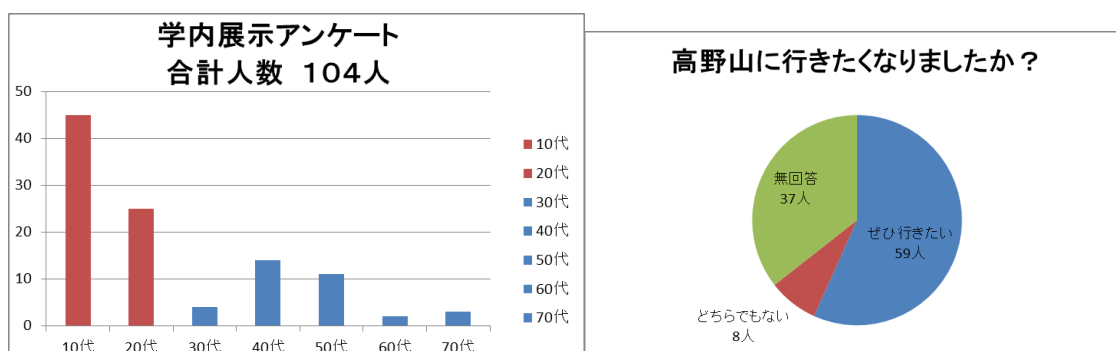


図 1

図 2

参加者の特徴

スマートフォンで撮影する人の多さが目立った。普段から写真を撮ることが好きな人から、高野山に興味のある人、留学生や大学院生、学部学年関係なく集まって頂けた。

参加動機は多義にわたり、高野山に興味があった人、無料ということで参加した人から、当プロジェクトに興味を持って参加してくれる人もいた。集まった写真では紅葉の写真を撮る人が多かった。

まとめ

入念に計画した今回のツアーであるが、どれだけ計画しても予想外のことで悩まされた。今回の反省や活動したタイムスケジュールはしっかり文字としてのコしているため、次の活動がより有意義なものになる。なにより無事にツアーが終了できたことが、メンバー全員の達成感につながり団体としてもよい方向に前進できたと感じた。

しかし中にはメンバーでさえも上手く情報が共有できていない、周りをよく見れていない人も目立った。ミッションメンバー以外の人への共有に意識していながら、まだまだ甘さを実感した。この反省を今後の班体制に活かしていこうと思う。

今回のミッションによりプロジェクトの知名度をかなり広げることができた。本当にありがたく新しいメンバーがこの活動がきっかけで加入してくれた。これからも、プロジェクトとして貪欲に活動をしていこうと思う。